

## 「ヘイデン、ミューア、マスク」

坂口 裕靖

開戦から2ヶ月、ウクライナはキーウ周辺を取り戻したものの、マリウポリあたりでの戦闘が続いています。生活にも影響が出始めており、なんとか良い方向に向かってもらいたいと思うのですが、まあどう考えても侵攻した方が悪いよね。

ところでtwitter、イーロン・マスクが買収する方向だそうです。今後どうなるかは予断を許さない状況ではあるものの、ウクライナ情勢とかを見ていると面白いことに気づきます。

自分で言うのもなんですが、わりとタイムラインの熟成には成功しており、大体の話題はなんらかの形で流れてきますし（ただし、ヒントとしてはあまりに淡すぎて、見過ごしてしまっただけで後から気づくことも多々あるのですが）、極端な意見は流れてきません。なので自分のタイムライン以外も

そんな世界なのであろうと思っていたのですが、実はそうでもなかったようです。

タイムラインは「ヒト」のリンクですから、通常は雑多な個人的tweetが流れてくるわけですが。ネコとか。ネコとか。逆に言えば、そういったツツツしない雑多なつぶやきで全方位に満ちているホワイトノイズに、特定話題のさざなみが乗ってくるような感じです。観測範囲がブロードではありますが、まあそれなりの感度で話題は拾えているようです。そんな状況の中、自分のタイムライン以外の言論空間がどうなっているかを観測しようとすると、「コトバ」で探索することになります。すると何が起るかというと、自分のタイムラインとは全く異なる世界が展開していることに驚くわけです。

恣意的に特定のミームを伝達させようと

する場合、当然ながら「コトバ」がキーとなります。情報戦の攻撃側も防御側も、「コトバ」を目印に陣地の確保をしていくわけですから、特にセンシティブな話題に関する「コトバ」の場合、非常に攻撃的かつツツツした言論が展開されている最中に放り込まれることとなります。フツーに考えれば「いや、それ誰がどう考えてもフェイクでしょ」といった、小手先の工作でゼロテープやみ出した糊が見えちゃってるような言論も、恥じることなくストレートに届いてきます。しかもそんなクオリティかつ正反対の意見が互いにぞろぞろ並んでたりするわけで、これって「最初にどのツイートに触れるか」によって意見がグラグラ揺れそうな勢いです。イジングスピン模型ってやつですね。あんまり怖くて泣いちゃった、ってな具合です。

### One Point BUZZ WORD

## お湯洗い

洗濯機の方は導入後1ヶ月が経過したわけですが、乾燥機能を使った場合、まだまだゴムパッキンの匂いが抜けていないという問題があります。ただ、徐々に薄れてきている感じもあるので、もしかしたら改善に向かうのかもしれない。もっとも、開口部をぐるっと取り囲むパッキンの物量を考えると、果たして本当に匂いが消えるのか... 匂いが消えるんだとしたら、じゃあどこからその匂いがしてたのかという話になりそうな予感。

洗剤の溶け残り問題については、「お湯洗いモード」でほぼ解消したといって良さそうです。お湯洗いモードを使わないと、ジェルボールのゼラチン的なところかなにかが溶けきれずに残ってしまい、パッキン部分に張り付いたり洗濯物に張り付いたりしているわけですが、お湯洗いモードで最も温度が低い20℃を指定

するだけで、完全に溶けきれなくなるようです。溶解度積の問題ということでしょうか。縦型の場合は十分に水があるのに対し、ドラムだと量が少ないため、こういう問題になるのかもしれない。

ところでジェルボールを使ってる（使用量が量子化されており、考えなくて良い代わりに多分割高なんだと思う）ので直接関係は無いのですが、液体洗剤や漂白剤を入れる部分に大量の水が残ります。というかこれ、本当に漂白剤が洗い物に使われてるのか心配になる程度に残ってます。口コミを見ると同様の問題で困ってる方もいるようで、なんか設計的な問題なのかもしれません。どうも微妙なセッティングのコツもあるようですので、もうしばらく様子を見てみたいと思います。

あとは乾燥機能のデフォルト設定値がかなり控えめになっていて、完璧に乾いてふわふわ、という感じにならないのがちょっと問題。多少湿り気が残ってるぐらいなので、ちょっと干せば気にならなくはなるのですが、このあたりをどうするかも課題なのです。

通常のタイムラインは、日常的に浴びていてもまったく過ごせるような話題を提供してくれている「ヒト」により濾過され、吟味され、それでもつづやかずにはいられないようなことだけが流れてくるわけですから、刺激の弱さが段違いです。もちろんその方々に当該の話題について信憑性を確かめたりなんだりした上でつづやきであるため、まとめとか俯瞰できるような周辺情報ももたらしてくれる場合が多く、どういう意見対立があるのかまで教えてもらえちゃったりするわけです。

まあもちろん、そうして濾過された話題自体が大変偏っている可能性は否定出来ないわけではあります。普段ネコだのガンダムだの rust だのしずかちゃんだの量子力学だのラーメンだの言ってる「ヒト」たちがちょっとつづやいた一言が、軒並み偏向してるとは考えづらいところです。もちろんネコだけじゃなくて色々受け取ってはいるわけですが、なににせよ「ミームによる利益が生じない」と思われる方々ばかりをフォローしているため、多分大丈夫なんじゃないかなあ。

そういった意味で、特定のセンシティブな話題をきっかけに twitter を始めたような場合、当該話題に関連する情報戦の最前線にいきなり放り込まれることになるのだと思います。で、最初に見かけたつづやきがどちらの陣営に加担しているかにより、そのユーザーのタイムラインはだんだんそちら陣営に染められていくことになるでしょう。すると、フォローしているユーザーの大部分が特定のミームに対して利益が生じる状況となるため、もはやエコーチェンバー化してしまうのも仕方ないところです。問題はそういう袋小路に閉じ込められたユーザーが、安寧のタイムラインを得られる

ような道筋が用意されているかということにあるかだと思います。アニーリングというやつでしょうか。

「コトバ」の場合、どれだけ「ぶれてるか」が一つの鍵になるかもしれません。陣地の取り合いになるようなセンシティブなワードをよけつつ、それでも当該話題をぼんやりと包含するようなキーワードを上手く選べるかどうか。キーワードがブレるほどノイズが増えるわけですが、逆に言えば特定陣営からの距離が遠くなり、より俯瞰する立場に近くなるということが言えます。「シヤア」よりは「ジオン」、「ガンダム」、「宇宙世紀」、「リアルロボット」、「サンライズ」とか。「サンライズ」で検索して出てくる「シヤア」に関するつづやきは、普通に考えて「シヤア」の熱狂的ファンによるものではない... んじゃないかな... たぶん。なにしろキーワードとして「サンライズ」がなければ検索に引っかからないわけですから。まあ仮に熱狂的ファンのものがあつたとして、そればかりがずらずら並ぶということはちょっと考えづらいです。

学生時代に紙の辞書や辞典で育った世代は、こういったノイジーな情報源は得意じゃないでしょうか。紙の場合はどうしても必要な情報の周辺に無用な情報が並んでいるのが目に入ります。面積比で言えば、調べたいことの 100 倍関係ない情報が並んでるとかザラじゃないでしょうか。ここいらへんから「頭文字は一緒だけど関係ないコトバや概念」に対する微弱なリンクが貼られていくと同時に、ノイジーな情報源から必要な情報を取り出す回路が増強されています。

一方で、検索システムはあまりに賢いため、指定したキーワードに関連した情報だけが並ぶ場合が多いです。急いでいる時は

ありがたいのですが、関係ない情報に触れる機会が減ってしまうという問題があります。紙の場合は表示がぼやけてるわけですが、検索の場合はそもそもキーワードの方をぼやけさせ、関係ない情報を豊富に含むよう小細工する必要があるわけです。

実名系 SNS の場合、自分の所属する社会階層外と接続することはなかなか難しいところですよ。すべての発言が自分に返ってくるため、自分の社会的地位を危うくするような意見を流布することは無いでしょう。一方で匿名系 SNS の場合、種々雑多な階層の人間が鼻をほじりながらつぶやいてるわけで、遥かに豊穡な言論空間になっています。立場を背負わずに思っていることが溢れ出るというのは大変貴重です。だから思わずポロリで大変なことが起こったりもするわけですが、まあそれが現実だし社会です。論壇では相同な階層でのやり取りしかない（階層が違えばマウントして潰すから）ですが、twitter は想像を絶する断絶を超えてやり取りが成立してしまいます（まあ、大抵はこじれますが）。この貴重さは、まさに言論空間のイエローストーンとは言えるのではないのでしょうか。イーロン・マスクがこの環境を国立公園的に保護してくれるのであれば大歓迎です。twitter は単なるサービスで、別の何かで代替可能な代物と考えてる向きは多いようですが、人気は狙って出せるものではありません。実は唯一無二の大切なものなんじゃないですかね？

Hiroyasu Sakaguchi  
株式会社 IMAGICA Lab.